CASIO

120件の電話番号記憶・スケジュール・メモ・カレンダー
ワールドタイム・8桁計算・アラーム・ストップウオッチ

DATA BANK

658

使用説明書

このたびは弊社製品をお買上げくださいまして誠にありがとうございました。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

なお、この使用説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

時計のお取り扱いで、万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることはありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

目　次

タッチスクリーン使用上の注意 ―― 1
ご使用上の注意 ―― 2
液晶パネルの交換について ―― 3
電池交換について ―― 4
操作のしくみと表示の見方 ―― 6
秒の合わせ方 ―― 8
時刻・カレンダーの合わせ方 ―― 9
メモリーについて ―― 11
オプション機能の使い方 ―― 14
テレメモの使い方 ―― 17
スケジュール機能の使い方 ―― 26
メモ機能の使い方 ―― 32
カレンダー機能 ―― 37
ワールドタイムの使い方 ―― 39
アラーム・時報の使い方 ―― 43
ストップウオッチの使い方 ―― 46
計算機能の使い方 ―― 47
製品仕様 ―― 49

タッチスクリーン使用上の注意

1. 本機のキー操作は指先で行なってください。ボールペンなどの先のとがった器具で押すと、キー(タッチスクリーン)に不具合を与えることがあります。
2. 本機の表示部は液晶表示の上にタッチスクリーンを重ねたものですので、見る角度によってはニジミ（ニュートンリング現象）が見えることがあります。
3. +60℃以上のところに長時間放置すると(キー)タッチスクリーンに不具合を与えることがあります。
4. 本機は非防水構造ですので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
5. タッチスクリーンは、押し方によっては隣のキーが入ることがありますので、一つ一つ確実にゆっくり押してください。
6. 温度が高い所や標高が高い所では、タッチスクリーンがふくらむことがありますが、使用上問題はありません。また、もとの温度・標高になれば戻ります。

ご使用上の注意

防水性●非防水構造ですので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

バンド●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。

お手入れ●ケースやバンドの汚れ、汗、水分などは吸湿性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にしてご使用ください。金属バンドについては時々、柔らかい歯ブラシなどによって、石けん水でスキ間にたまった汚れを部分洗いすることをおすすめします。

●汚れたままですとサビたり、衣類の袖口を汚したり、皮膚の弱い方はかぶれたりする場合があります。

温度●直射日光が長く当ったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止ったりすることがあります。

●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障を来すことがありますのでご注意ください。

ショック●通常の使用状態でのショックや軽い運動(キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

磁気●磁気の影響はありません。

薬品類●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

保管●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

電池交換について

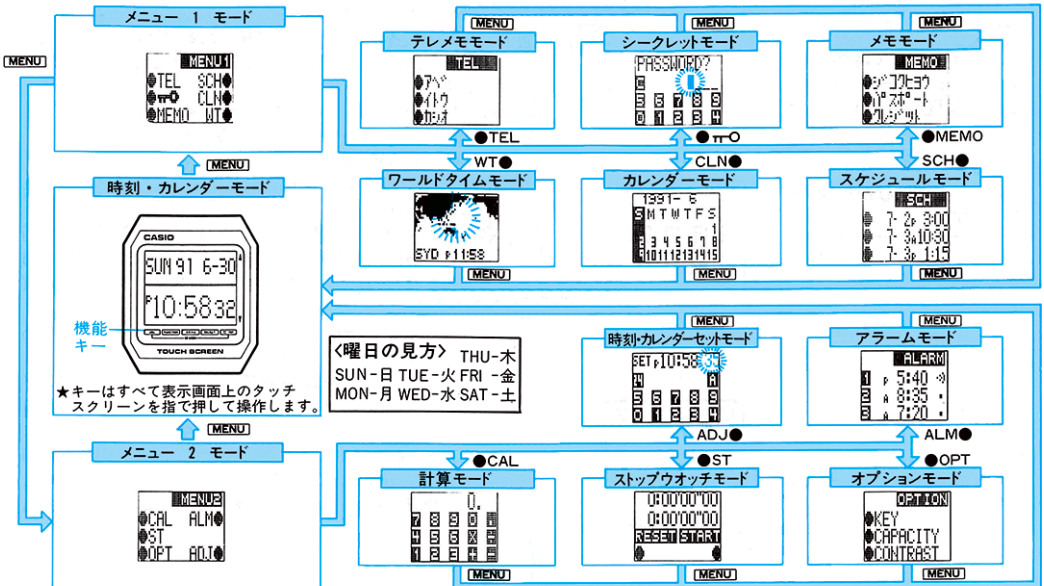
最初の電池
●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消　　耗
●電池が消耗しますと電池切れ予告として、時刻・カレンダーモードのときは表示窓上部の曜日表示部に〝BATT〟と表示されます。このときはなるべく早く電池を交換してください。
※電池切れ予告中は、時刻アラーム・時報および操作確認音は鳴りません。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換
●電池交換は必ずお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

操作のしくみと表示の見方

MENUキーを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。（押すごとに操作確認音が鳴ります）
※操作確認音が鳴らない場合は、「オプション機能の使い方」を　ご覧ください。
※本紙では入力例にカタカナを使用しています。カタカナの表　示をさせるには、「オプション機能の使い方」をご覧ください。



※MENUは機能キーを押します。　●TEL等はタッチスクリーン上の　"●" マークを押します。

秒の合わせ方･･･30秒以内の遅れ進みの修正

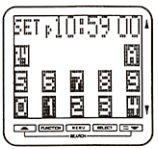
月に一度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

〈時刻・カレンダーセットモード〉

(1)時刻表示から MENU キーを2回押すメニュー2モードから〝ADJ●〟を押して時刻・カレンダーセットモードにします。このとき「秒」が点滅します。



(2)時報に合わせて、 キーを押すと「秒」が00秒からスタートします。



秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは1分くりあがって、00秒からスタートします。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3)秒合わせが終わりましたら、MENU キーを押すと時刻表示に戻ります。

※FUNCTION キーを押しても時刻表示に戻ります。



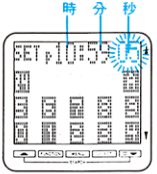
時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻・カレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

〈時刻・カレンダーセットモード〉

(1)時刻表示から MENU キーを2回押すメニュー2モードから〝ADJ●〟を押して時刻・カレンダーセットモードにします。このとき「秒」が点滅します。

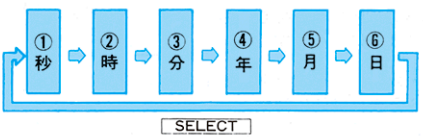
※セット中（表示が点滅中）に キーを押すと24時間制表示に（ が に替わります）、 キーを押すと12時間制表示に切り替わります。



(2) SELECT キーを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。

点滅箇所がセット可能ですので、セットしたい箇所を点滅させます。



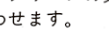


※年は西暦で、1990～2089年までセットできます。

※曜日は年・月・日を合わせれば自動的にセットできます。

(3)時刻合わせは、合わせたい時刻の数字のタッチスクリーンを押すと、押した数値が表示され、点滅箇所が次の桁に移動します。

例）午前8時30分に合わせる。

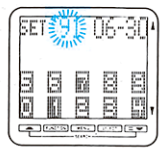


※表示時刻が午後のときはPが、午前のときはAが表示されます。

(4)時刻合わせが終わったら、カレンダーのセットも同様にタッチスクリーンの数字を押して合わせます。

例）91年7月3日に合わせる。





(3)セットが終わりましたら、MENUキーを押すと時刻表示に戻ります。

※FUNCTIONキーを押しても時刻表示に戻ります。



※時刻・カレンダーセットモードのままにしておくと、2～3分後自動的に時刻カレンダー表示に戻ります。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

メモリーについて

■メモリー容量の計算方法

本機のデータメモリー容量は基本の文字数を単位としてテレメモ（シークレット機能を含む）またはスケジュール、メモを各々のみで使用したときで120件ですが、各機能の名前・電話番号・メッセージ・メモの桁数（文字数）によりメモリーできる件数が異なります。

残りメモリー容量はオプションモードで確認することができます。（「残りメモリー容量の表示」をご覧ください。）

〈基本文字数〉

●テレメモ：名前部6桁、電話番号部12桁→テレメモのみで120件

●スケジュール：メッセージ8桁→スケジュールのみで120件

●メモ：メッセージ12桁→メモのみで120件

〈メモリー容量の計算方法〉

テレメモ・スケジュール・メモを合わせて使用したときは、以下の計算方法により残りメモリー容量が求められます。本機のメモリー容量は合計で1680単位あり、以下の内容でメモリーが使用されます。

●テレメモ（シークレット機能を含む）

名前部：6文字ごとに6単位

電話番号部：12文字ごとに6単位

住所部：2文字ごとに2単位

その他に1件メモリーごとに2単位

●スケジュール

月・日・時・分：４単位

メッセージ部：２文字ごとに２単位

その他に１件メモリーごとに２単位

●メモ

メモ：２文字ごとに２単位

その他に１件メモリーごとに２単位

上記の単位の合計で1680単位までメモリーできます。

例１）テレメモで名前部６文字・電話番号部12文字を10件、名前部10文字・電話番号部12文字・住所部10文字を８件メモリーした場合。

（６単位＋６単位＋２単位）　×10件＝140単位
名前部　電話番号
６文字　12文字

（12単位＋６単位＋10単位＋２単位）×８件＝240単位
名前部　電話番号　住所
10文字　12文字　10文字

合　計　380単位

※この状態では380単位使用しているため、残り1300単位までメモリーできます。

例２）上記例１にスケジュールでメッセージ16文字を５件メモリーした場合。

（４単位　＋　16単位　＋　２単位）×５件＝110単位
月・日・時・分　メッセージ

合　計　490単位

※この状態では490単位使用しているため、残り1190単位までメモリーできます。

■メモリーがいっぱいのとき

メモリーいっぱいにデータが入力されているときに、データを入力しようとすると次の表示を行ない、これ以上入力できなくなります。

入力（●INPUT）を押すと…〝MEMORY FULL〟を表示して、各モードの表示に戻る。

訂正（●EDIT）中……〝MEMORY FULL〟を表示して入力ができなくなる。
FUNCTIONキーを押すと各モードの表示に戻る。

オプション機能の使い方…メニュー2モードより〝●OPT〟を押してオプションモードにします。

オプション機能は、本機を使用する際のキー入力音のON/OFF、カタカナ表示の有無、残りメモリー容量の表示、表示のコントラスト調整が行なえます。

■キー入力音のON/OFFおよびカタカナ表示の有無

(1)メニュー2モードのときに〝●OPT〟を押してオプションモードにします。

〈オプションモード〉



(2)〝●KEY〟を押すとキー入力設定モードになります。



(3)キー入力音は〝●SOUND〟を、カタカナ入力をするときは〝●JPN〟を押すごとに〝ON〟と〝OFF〟が切り替わります。

例)〝●JPN〟を押す。



	ON	OFF
●SOUND	鳴る	鳴らない
●JPN	カタカナ・英・数字	英・数字

(4)設定が終わりましたら、MENUキーを押すとオプションモードの表示に戻ります。

※FUNCTIONキーを押してもオプションモードの表示に戻ります。

時刻表示に戻すときは、もう一度MENUキーを押します。

■残りメモリー容量の表示

〈オプションモード〉



(1)メニュー2モードのときに〝●OPT〟を押してオプションモードにします。

(2)〝●CAPACITY〟を押すと残りメモリー容量をパーセントで表示します。



(3)残りメモリー容量の確認が終わりましたら、MENUキーを押すとオプションモードの表示に戻ります。

※FUNCTIONキーを押してもオプションモードの表示に戻ります。

時刻表示に戻すときは、もう一度MENUキーを押します。

■コントラスト調整の仕方

コントラスト調整は0～11の12段階に表示濃度を調整できます。

(1)メニュー2モードのときに〝●OPT〟を押してオプションモードにします。



(2)〝●CONTRAST〟を押すと表示窓上部に表示濃度を示すレベル番号を表示します。



(3)[▲]キーを押すごとに表示濃度が薄くなり、[▼]キーを押すごとに表示濃度が濃くなりますので、表示されている時刻を見ながら、見やすい濃度に調整します。

例）[▼]キーを押すと表示濃度が1レベル濃くなる。



(4)コントラストの調整が終わりましたら、[MENU]キーを押すとオプションモードの表示に戻ります。

※[FUNCTION]キーを押してもオプションモードの表示に戻ります。

時刻表示に戻すときは、もう一度[MENU]キーを押します。

※オプションモードでセットまたは調整中、そのままにしておくと2～3分後自動的にオプションモードに戻り、さらにオプションモードのままにしておくと2～3分後時刻カレンダー表示に戻ります。

テレメモの使い方…メニュー1モードより〝●TEL〟を押してテレメモモードにします。

テレメモは電話番号記憶機能で、名前・電話番号・住所をメモリーできます。メモリーできる件数は名前と電話番号の桁数および住所の有無、スケジュール機能・メモ機能の使用状況により異なり、名前部6桁・電話番号部12桁以内のときにテレメモのみで使用して最大120件です。

※1件の最大文字数は、名前部24桁、電話番号部12桁、メモ部88桁です。

※メモリー件数については、「メモリー容量の計算方法」をご覧ください。

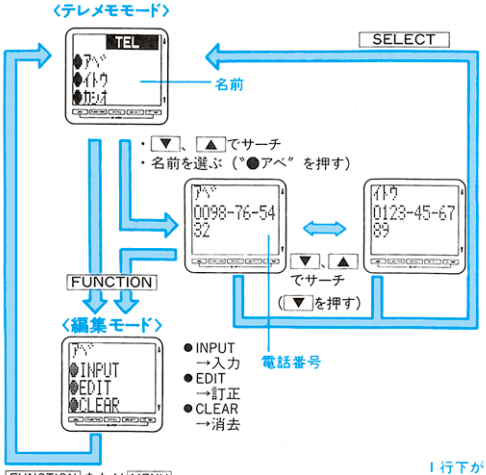
※本機能は、暗唱番号の入力を行なわないと、メモリーしてあるデータを見ることができないシークレット機能もあります。シークレット機能はテレメモと同じ機能をもっていますが、操作（入力・表示等）はシークレットモード（〝●🔑〟を押すモード）で行ないます。

テレメモモードでは前回サーチした名前から3件分表示されますので、[▼]キーまたは[▲]キーで名前をサーチし、表示されている名前の左にある〝●〟を押すと電話番号などを表示します。

※名前のサーチは[▼]キーを押すごとにアルファベット・アイウエオ順に、[▲]キーを押すごとに逆の順に表示されます。（自動編集）

また、データの編集は[FUNCTION]キーを押して編集モードで行ないます。

★本書では入力・表示をカタカナで行ないます。カタカナ表示の切り替えについては「オプション機能の使い方」をご覧ください。



★入力文字が多く1度に表示しきれないときは、最初に上から4行分表示しますので、次のデータを見たいときは、表示窓4段目の行を押すと1行ずつ繰り上がって表示します。また、もとの行を表示させたいときは2段目の行を押すと1行ずつもとに戻ります。

※行送りを行なっても、1行目の10文字は固定して表示します。

■データの編集

データの編集はテレメモードでFUNCTIONキーを押して編集モードで行ないます。

編集は入力（●INPUT）、訂正（●EDIT）、消去（●CLEAR）ができ、各々行ないたい名前の左の〝●〟を押して選びます。



●データの入力



(1)編集モードで〝●INPUT〟を押すと入力モードとなり、名前の入力になります。

(2)名前はアルファベットまたはカタカナの文字を直接押して入力します。

入力文字は表示窓4段目の〝⏫〟または〝⏬〟を押すと表示文字が切り替わりますので、入力したい文字列を表示させ、文字を直接押します。



例）・⏬を3回押す
・▣を押す

⏫または⏬を押して入力したい文字列を表示させ、文字を直接押して入力する操作をくりかえし行ない、名前を入力します。

もし、間違った文字を入力したときは、⊹または⊹を押して訂正したい文字を点滅させ、正しい文字を入力し直します。

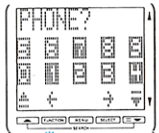
(3)名前の入力が終わりましたら、SELECTキーを押すと電話番号の入力になります。

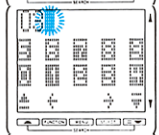
(4)電話番号部は数字・記号が入力できますので、名前の入力と同様に〝▟〟または〝▜〟を押して文字列を表示させ、数字・記号を直接押して、電話番号を入力します。
例）▣ ▣を押す

(5)電話番号の入力が終わりましたら、SELECTキーを押すと住所などのメモ入力になります。

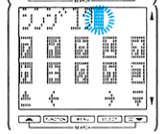
(6)メモも名前と同様にアルファベットまたはカタカナの文字を直接押して入力します。
例）シンジュクと入力する

(7)すべての入力が終わりましたら、FUNCTIONキーを押すとアルファベット・カタカナ順に並びかえるソート表示となり、テレメモモードの表示に戻ります。











●続けてデータを入力するときは、FUNCTIONキーを押さずに▼キーを押すと、〝NAME？〟を表示して連続入力ができます。

●データの訂正

(1)入力してあるデータの訂正は、テレメモモードで訂正したい名前をサーチし、名前の左の〝●〟を押して電話番号を表示させます。

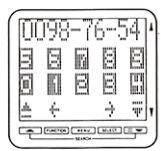


〈編集モード〉

(2)FUNCTIONキーを押して編集モードにします。
※編集モードでも▼キーまたは▲キーを押して名前のサーチができます。



(3)〝●EDIT〟を押すとSELECTキーを押すごとに名前→電話番号→住所などのメモの順に訂正できますので、入力と同様に訂正したい箇所を選び、⊹または⊹を押して訂正したい箇所を点滅させ正しい文字・数字・記号を入力し直します。



(4)訂正が終わりましたら、FUNCTIONキーを押すとテレメモモードの表示に戻ります。
※名前を訂正したときは、アルファベット・カタカナ順に並びかえるソート表示となります。

●データの消去

(1)入力してあるデータを消去するときは、テレメモモードで消去したい名前をサーチし、名前の左の〝●〟を押して電話番号を表示させます。



〈編集モード〉

(2)FUNCTIONキーを押して編集モードにします。
※編集モードでも▼キーまたは▲キーを押して名前のサーチができます。



(3)〝●CLEAR〟を押すと名前が点滅してクリアーモードになりますので、消去するときは〝●YES〟を、消去したくないときは〝NO●〟を押します。
※〝NO●〟を押すと、テレメモモードの表示に戻ります。



(消去表示)

(4)〝●YES〟を押すと消去表示となり、データが消去された後、テレメモモードの表示に戻ります。

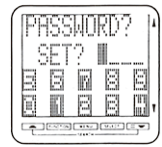


■シークレット機能の使い方

シークレット機能はメニューモードから〝●〟を押して暗唱番号をセットしてからシークレットモードにします。暗唱番号をセットしていないときは、まず暗唱番号をセットします。

●暗唱番号のセット

(1)暗唱番号がセットしていないときは、暗唱番号セット表示となります。



(2)暗唱番号を数字4桁で入力すると〝PASSWORD OK〟と表示してシークレットモードになります。
※暗唱番号は忘れにくい番号にしてください。
※データが何も入力されていないときは、〝NO DATA〟と表示します。

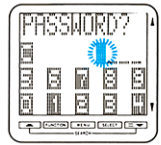


シークレットモードでは通常のテレメモモードと同じに入力・訂正・消去が行なえます。

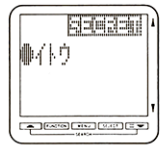
(3)シークレットモードでの入力が終わりましたらMENUキーを押すと時刻表示に戻ります。
※これでシークレットモードから抜け出したことになります。シークレットモードに入力したデータを見たり、新たに入力したいときは、再び暗唱番号を入力しなくてはなりません。

●シークレットモードにはいるには(暗唱番号をすでにセットしてあるとき)

(1)メニューⅠモードから〝●〟を押すと暗唱番号の入力となります。



(2)セットしてある暗唱番号を数字4桁で入力します。暗唱番号が正しいときは〝PASSWORD OK〟と表示してシークレットモードになります。
もし、暗唱番号が正しくないときは〝PASSWORD ERROR〟と表示され、約2秒後に再び暗唱番号の入力となります。
以後、通常のテレメモモードと同じに入力・訂正・消去が行なえます。



(3)シークレットモードでの入力が終わりましたらMENUキーを押すと時刻表示に戻ります。

●暗唱番号の変更

(1)Ⅰ度セットした暗唱番号を変更したいときは、暗唱番号入力時にFUNCTIONキーを押すと現在セットされている暗唱番号の入力となります。



(2)暗唱番号が正しいときは、新たな暗唱番号のセットになります。

(3)新たな暗唱番号を入力すると、〝PASSWORD OK〟と表示して、テレメモモードになります。



暗唱番号を忘れたときは

★この操作によりシークレットモードにメモリーされていたデータは暗唱番号とともにすべて消去されますので、ご注意ください。



暗唱番号の入力のときに□を押すとシークレットモードのデータ消去表示となります。消去してもよいときは〝●YES〟を、消去したくないときは〝NO●〟を押します。

※〝NO●〟を押すと時刻表示に戻ります。



〝●YES〟を押すと〝SECRETDATA ALL CLEAR〟と表示して時刻表示に戻ります。

★テレメモ・シークレットモードでキー操作をしないでおくと、2～3分後自動的に時刻表示に戻ります。

スケジュール機能の使い方

メニュー1モードより"SCH●"を押してスケジュールモードにします。

スケジュール機能は月・日・時・分とメッセージを最大120件までメモリーできます。メモリーできる件数はメッセージの桁数およびテレメモ・メモ機能の使用状況により異なり、メッセージが8桁以内のときにスケジュール機能のみで使用して最大120件です。

※1件の最大文字数は、メッセージ120桁です。

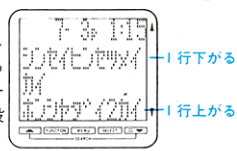
※メモリー件数については、「メモリー容量の計算方法」をご覧ください。

スケジュールモードでは時刻表示のときに表示される時刻・カレンダーから最も近い次のスケジュールを3件分表示します。また、▼キーまたは▲キーでサーチし、表示されている月日の左にある"●"を押すとメッセージが表示されます。

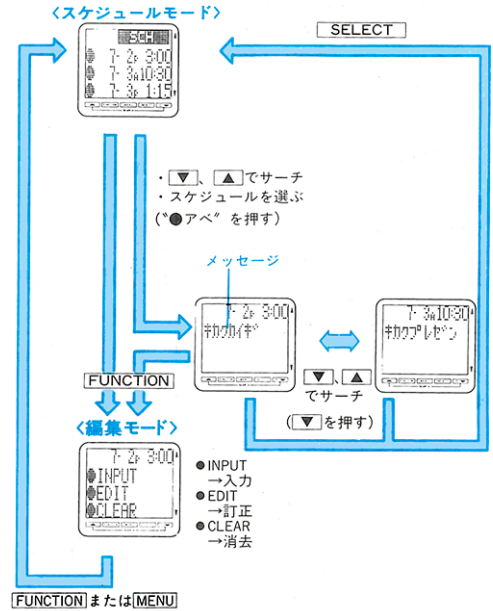
また、データの編集はFUNCTIONキーを押して編集モードで行ないます。

★本書では入力・表示をカタカナで行ないます。カタカナ表示の切り替えについては「オプション機能の使い方」をご覧ください。

★入力文字が多く1度に表示しきれないときは、最初に上から4行分表示しますので、次のデータを見たいときは、表示窓4段目の行を押すと1行ずつ繰り上がって表示します。また、もとの行を表示させたいときは2段目の行を押すと1行ずつもとに戻ります。



※行送りを行なっても、1行目の月・日・時・分は固定して表示します。



●スケジュールの報知

セットしたスケジュールの時間になると、20秒間の電子ブザーとともに〝SCH〟を表示して知らせてくれます。

このとき、タッチスクリーン上を押しますと、スケジュールモードに切り替わり、メッセージを表示します。



■データの編集

データの編集はスケジュールモードで[FUNCTION]キーを押して編集モードで行ないます。

編集は入力(●INPUT)、訂正(●EDIT)、消去(●CLEAR)ができ、各々行ないたい月・日・時・分の左の〝●〟を押して選びます。



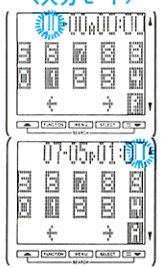
●データの入力

(1)編集モードで〝●INPUT〟を押すと入力モードとなり、月・日・時・分の入力になります。

(2)タッチスクリーン上の数字を直接押して入力します。

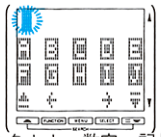
例) 7月5日午後1時00分を入力する。

[5][P][1][0][0]と押す。



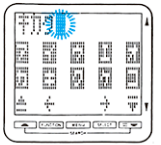
※午前のときはPを押しません。もし、間違った文字を入力したときは、+または-を押して訂正したい文字を点滅させ、正しい文字を入力し直します。

(3)月・日・時・分の入力が終わりましたら、[SELECT]キーを押すとメッセージの入力になります。



(4)メッセージはアルファベット・カタカナ・数字・記号が入力できます。入力文字は表示窓4段目の〝▲〟または〝▼〟を押すと表示文字が切り替わりますので、入力したい文字列を表示させ、文字を直接押して、メッセージを入力します。

例)[日][月][火]と押す



▲または▼を押して入力したい文字列を表示させ、文字を直接押して入力する操作をくりかえし行ない、メッセージを入力します。

もし、間違った文字を入力したときは、+または-を押して訂正したい文字を点滅させ、正しい文字を入力し直します。

(5)すべての入力が終わりましたら、[FUNCTION]キーを押すと月・日・時・分のスケジュール順に並びかえるソート表示となり、スケジュールモードの表示に戻ります。



●続けてデータを入力するときは、[FUNCTION]キーを押さずに[▼]キーを押すと、月・日・時・分の入力となり、連続入力ができます。

●データの訂正

(1)入力してあるデータの訂正は、スケジュールモードで訂正したい月・日・時・分をサーチし、左の〝●〟を押してメッセージを表示させます。

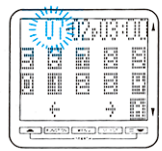


〈編集モード〉

(2)FUNCTIONキーを押して編集モードにします。



(3)〝●EDIT〟を押すとSELECTキーを押すごとに月・日・時・分→メッセージの順に訂正できますので、入力と同様に訂正したい箇所を選び、+または→を押して訂正したい箇所を点滅させ正しい文字・数字・記号を入力し直します。



(4)訂正が終わりましたら、FUNCTIONキーを押すとスケジュールモードの表示に戻ります。

※月・日・時・分を訂正したときは、スケジュール順に並びかえるソート表示となります。

●データの消去

(1)入力してあるデータを消去するときは、スケジュールモードで消去したい月・日・時・分をサーチし、左の〝●〟を押してメッセージを表示させます。



〈編集モード〉

(2)FUNCTIONキーを押して編集モードにします。



(3)〝●CLEAR〟を押すと月・日・時・分が点滅してクリアーモードになりますので、消去するときは〝●YES〟を、消去したくないときは〝NO●〟を押します。

※〝NO●〟を押すと、スケジュールモードの表示に戻ります。



(消去表示)

(4)〝●YES〟を押すと消去表示となり、データが消去された後、スケジュールモードの表示に戻ります。



★スケジュールモードでキー操作をしないでおくと、2～3分後自動的に時刻表示に戻ります。

メモ機能の使い方…メニュー1モードより"●MEMO"を押してメモモードにします。

メモ機能はメッセージを最大120件までメモリーできます。メモリーできる件数はメッセージの桁数およびテレメモ・スケジュール機能の使用状況により異なり、メッセージが12桁以内のときにメモ機能のみで使用して最大120件です。

※1件の最大文字数は、250桁です。

※メモリー件数については、「メモリー容量の計算方法」をご覧ください。

メモモードでは前回サーチしたメッセージから3件分表示します。また、▼キーまたは▲キーでサーチし、表示されている月日の左にある"●"を押すとメッセージの続きが表示されます。

また、データの編集はFUNCTIONキーを押して編集モードで行ないます。

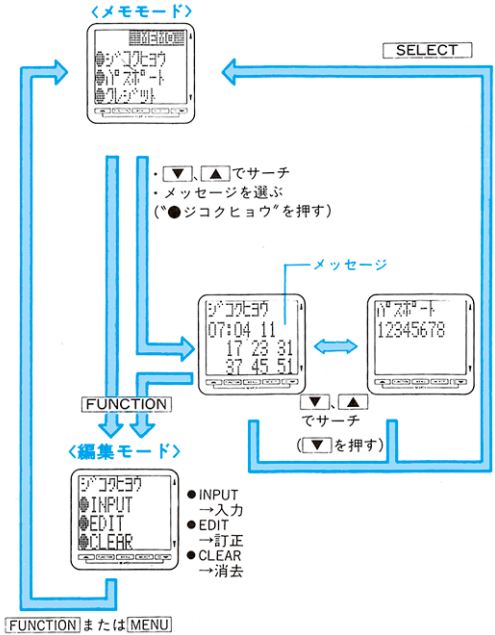
★本書では入力・表示をカタカナで行ないます。カタカナ表示の切り替えについては「オプション機能の使い方」をご覧ください。



★入力文字が多く1度に表示しきれないときは、最初に上から4行分表示しますので、次のデータを見たいときは、表示窓4段目の行を押すと1行ずつ繰り上がって表示します。

また、もとの行を表示させたいときは2段目の行を押すと1行ずつもとに戻ります。

※行送りを行なっても、1行目の10文字分は固定して表示します。



■データの編集

データの編集はメモモードでFUNCTIONキーを押して編集モードで行ないます。
編集は入力（●INPUT）、訂正（●EDIT）、消去（●CLEAR）ができ、各々行ないたいメッセージの左の〝●〟を押して選びます。

〈編集モード〉



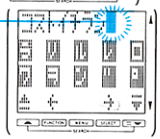
●データの入力

(1)編集モードで〝●INPUT〟を押すと入力モードとなり、メッセージの入力になります。

〈入力モード〉



次の桁が点滅します



(2)メッセージはアルファベット・カタカナ・数字・記号が入力できますので、入力文字は表示窓4段目の〝≙〟または〝≚〟を押すと表示文字が切り替わりますので、入力したい文字列を表示させ、文字を直接押して、メッセージを入力します。

例） と押す

≙または≚を押して入力したい文字列を表示させ、文字を直接押して入力する操作をくりかえし行ない、メッセージを入力します。
もし、間違った文字を入力したときは、∔または∔を押して訂正したい文字を点滅させ、正しい文字を入力し直します。

(3)すべての入力が終わりましたら、FUNCTIONキーを押すとメモモードの表示に戻ります。
●続けてデータを入力するときは、FUNCTIONキーを押さずに▼キーを押すと、連続入力ができます。

●データの訂正

(1)入力してあるデータの訂正は、メモモードで訂正したいメッセージをサーチし、左の〝●〟を押して続きを表示させます。

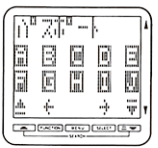


〈編集モード〉

(2)FUNCTIONキーを押して編集モードにします。



(3)〝●EDIT〟を押すとメッセージの訂正ができますので、入力と同様に訂正したい箇所を選び、∔または∔を押して訂正したい箇所を点滅させ正しい文字・数字・記号を入力し直します。



(4)訂正が終わりましたら、FUNCTIONキーを押すとメモモードの表示に戻ります。

●データの消去

(1)入力してあるデータを消去するときは、メモモードで消去したいメッセージをサーチし、左の〝●〟を押して続きを表示させます。



〈編集モード〉

(2) FUNCTION キーを押して編集モードにします。



(3)〝●CLEAR〟を押すとメッセージの10文字分（1行分）が点滅してクリアーモードになりますので、消去するときは〝●YES〟を、消去したくないときは〝NO●〟を押します。
※〝NO●〟を押すと、メモモードの表示に戻ります。



(消去表示)

(4)〝●YES〟を押すと消去表示となり、データが消去された後、メモモードの表示に戻ります。



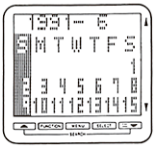
★メモモードでキー操作をしないでおくと、2～3分後自動的に時刻表示に戻ります。

カレンダー機能…メニュー1モードより〝CLN●〟を押してカレンダーモードにします。

カレンダー機能は基本時刻・カレンダーを基準として当月のカレンダー（7曜表）を表示します。カレンダーは1990年～2089年の間で、当月から順に送り・戻しができ、直接年・月を入力して表示させることもできます。

●カレンダーのシーケンシャルサーチ

(1)メニュー1モードから〝CLN●〟を押してカレンダーモードにします。



(2) ▼ キーを押すごとに次の月が、 ▲ キーを押すごとに前の月が表示されます。
例） ▼ を押す



(3)カレンダーは最初上から3行分を表示しますので、次の行を見たいときは表示窓5段目の行を押すと1行ずつ繰り上がって表示します。
また、もとの行を表示させたいときは2段目の行を押すと1行ずつもとに戻ります。



●カレンダーのダイレクトサーチ

(1)メニューⅠモードから〝CLN●〟を押してカレンダーモードにします。



(2)FUNCTIONキーを押すと年・月の入力になります。

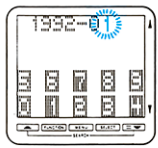


(3)年は西暦の下2桁を入力します。

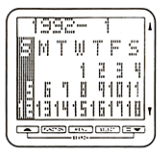
例）1992年1月を入力する

1 9 9 2 と押す

※西暦年の最初が〝9〟のときは1990年代となり、〝0～8〟のときは2000年代となります。



(4)FUNCTIONキーを押すと、その月のカレンダーが表示されます。



★テレメモ・シークレットモードでキー操作をしないでおくと、2～3分後自動的に時刻表示に戻ります。

ワールドタイムの使い方

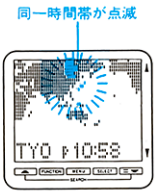
メニューⅠモードより〝WT●〟を押してワールドタイムモードにします。

ワールドタイムは世界24ヵ所の標準時を内蔵し、各標準時ごとに都市コード、時刻、世界地図を表示します。ワールドタイムは1ヵ所の標準時をセットすれば、時差により自動的に計算されて、他のワールドタイムをセットする必要はありません。

■都市のサーチ

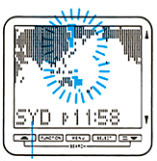
都市のサーチはメニューⅠモードから〝WT●〟を押して、ワールドタイムモードで行ないます。

(1)ワールドタイムモードに切り替えると、前回サーチした都市の都市コードと時刻、世界地図が表示され、世界地図上の同一時間帯の地域が点滅します。



(2)サーチはグリニッジ標準時（GMT）を基準として、▼キーを押すごとに時差の大きい方に、▲キーを押すごとに時差の小さい方に移動しながら各都市の標準時を表示します。

例）▼キーを押す



(3)また、連続して送りながらサーチするときは、タッチスクリーン上の右半分を押すと時差の大きい方に、左半分を押すと時差の小さい方に連続して送られます。（連続サーチ）



この連続サーチを止めるには、タッチスクリーン上の左右どちらかを押すか、表示窓下の[▲]、[FUNCTION]、[MENU]、[SELECT]、[▼]キーのいずれかを押します。

(4)都市のサーチが終わりましたら、[MENU]キーを押すと、時刻表示に戻ります。

■ワールドタイムの時刻セット

(1)ワールドタイムモードでセットしたい都市を表示させます。



(2)[FUNCTION]キーを押すと、時刻セットモードになります。



(3)タッチスクリーン上の数字を押して時・分を入力します。

例）午前8時30分をセットする

0 8 3 0 と押す

※午後のときは[12]は押しません



(4)サマータイム（＋1時間）を設定するときは、時刻セットモードで表示が点滅しているときに、タッチスクリーン上の[12]を押すとサマータイムマーク〝☼〟が点灯・不点灯をくりかえします。

〝☼〟が点灯するとサマータイムとなり、世界地図の下でもサマータイムマークが点灯します。



(5)入力が終わりましたら、[FUNCTION]キーを押すと時刻がセットされ、世界地図の表示に戻ります。

※ワールドタイムの「秒」は基本時刻に連動しています。

●ワールドタイムの時刻セット状態で表示を点滅のままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まり、世界地図の表示に戻ります。

★ワールドタイムモードでキー操作をしないでおくと、2～3分後自動的に時刻表示に戻ります。

〈参考：都市コード一覧表〉

都市コード	都市名	時差	同一標準時の他の都市・地域
― ― ―	― ― ―	－11	パゴパゴ
HNL	ホノルル	－10	パピート
ANC	アンカレッジ	－ 9	ノーム
LAX	ロサンゼルス	－ 8	サンフランシスコ、シアトル、ラスベガス
DEN	デンバー	－ 7	エルパソ、エドモントン
CHI	シカゴ	－ 6	ダラス、メキシコシティ、ヒューストン
NYC	ニューヨーク	－ 5	マイアミ、ボストン、モントリオール
CCS	カラカス	－ 4	サンチアゴ
RIO	リオデジャネイロ	－ 3	サンパウロ、ブエノスアイレス
― ― ―	― ― ―	－ 2	
― ― ―	― ― ―	－ 1	アゾレス諸島
LON	ロンドン	± 0	〈グリニッジ標準時〉 ダブリン、リスボン
PAR	パリ	＋ 1	ローマ、マドリード、アムステルダム、ハンブルグ
CAI JRS	カイロ イエルサレム	＋ 2	アテネ、ヘルシンキ、ベイルート、ケープタウン
MOW	モスクワ	＋ 3	クウェート、バグダット、ナイロビ
DXB	ドバイ	＋ 4	アブダビ
KHI	カラチ	＋ 5	
DAC	ダッカ	＋ 6	タシケント
BKK	バンコク	＋ 7	ジャカルタ、ハノイ
HKG	香港	＋ 8	台北、北京、シンガポール、マニラ、クワラルンプール
TYO	東京	＋ 9	ソウル、平壌
SYD	シドニー	＋10	グアム島、メルボルン
NOU	ヌメア	＋11	ポートヴィラ
WLG	ウェリントン	＋12	クリストチャーチ

※この時差は1990年６月現在のものです。
※時差はグリニッジ標準時（協定世界時：UTC）を基準としたものです。

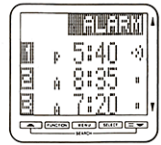
アラーム・時報の使い方…メニュー２モードより"ALM●"を押してアラームモードにします。

アラームは分単位で５つのアラーム時刻をセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子ブザーで知らせてくれます。

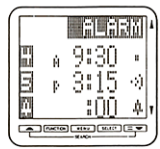
なお、５つのアラームはいずれも同じ使い方ができ、同時に５つの時刻をセットすることができます。

また、毎正時（00分のとき）を〝ピッピッ〟と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。

アラームセット時刻の確認はアラームモードで▲キーまたは▼キーを押すごとにアラーム１～３とアラーム４・５・時報の表示が切り替わります。



▲または▼



●アラームのセットの仕方

(1)アラームモードで[FUNCTION]キーを押すとアラームセットモードになります。

※アラーム1～3表示中はアラーム1の、アラーム4・5・時報表示中はアラーム4のセットになります。



(2)[▲]キーまたは[▼]キーを押してセットしたいアラーム(番号)を選びます。

例)[▼]を押す



(3)タッチスクリーン上の数字を直接押して、時・分を入力します。

例)午後6時をセットする

[6][0][0]と押す

※午前のときは[5]は押しません



セット時刻を間違えて入力したときは、[SELECT]キーを押すと点滅箇所が進みますので、訂正したい箇所を点滅させて、正しい数字を押します。

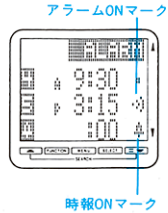
※「時」のセットのとき午前／午後にご注意ください。

※基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。

(4)セットが終わりましたら、[FUNCTION]キーを押すとアラームモードの表示に戻り、セット完了です。

※アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まり、アラームモードの表示に戻ります。

●アラーム・時報を鳴らすには



アラームモードで表示しているアラーム番号([1]～[5])または時報マーク([A])を押すごとにアラームONマーク(·))、時報ONマーク(🔔)が点灯・不点灯(▫)をくりかえします。各マークとも点灯しているときがONで、アラーム・時報が鳴ります。

※アラームおよび時報を鳴らさないときは、アラームONマーク(·))または時報ONマーク(🔔)が点灯していない状態(▫)にします。

●鳴っている電子ブザーを止めるには

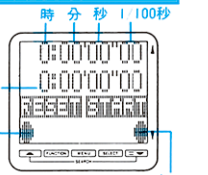
鳴っている電子ブザーを止めるには、表示窓のタッチスクリーンを押します。

★アラームモードでキー操作をしないでおくと、2～3分後自動的に時刻表示に戻ります。

ストップウオッチの使い方…

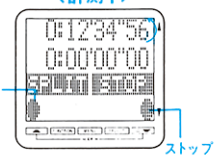
メニュー2モードより"●ST"を押してストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99(24時間計)まで計測でき、以後自動的に0に戻って計測し続けます。



★計測のしかた

ストップウオッチモードでタッチスクリーン上のメッセージを押すことによりスタート／ストップ／スプリット／リセットが行なえます。



●通常の計測

START ⇨ STOP ⇨ RESET

スタート　ストップ　リセット

※積算計測…ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずに再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

START ⇨ SPLIT ⇨ STOP ⇨ RESET

スタート　スプリット 計測　ストップ　リセット

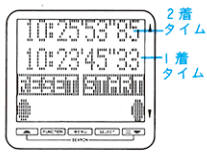
●1着・2着のタイム同時計測

START ⇨ SPLIT ⇨

スタート　1着がゴール

⇨ STOP ⇨ RESET

2着がゴール　リセット



計算機能の使い方…

メニュー2モードより"●CAL"を押して計算モードにします。

計算モードでは8桁の加減乗除計算、四則定数計算が行なえます。

計算は置数・答とも8桁（負数は7桁）で、数式通りに操作ができます。また、＋ － × ÷を押すと表示窓に＋／－／×／÷の各マークが表示され、計算過程が確認できます。



表示窓下のFUNCTIONキーは一度押すと入力のクリアーに、2度押すと計算のオールクリアー（ゴハサン）キーに、▼キーはイコールキー（＝）になります。

●訂正の仕方

計算途中の数字の押し間違いはFUNCTIONキーを押し、正しく数字を入れ直せば、そのまま計算できます。

また、＋ － × ÷の押し間違いは続けて正しく押し直します。

●桁オーバーになると答の右に" E "を表示し、小数点は「億の位」を示します。

"E"表示で計算を続けるときはFUNCTIONキーを1度押し、新たな計算を始めるときはFUNCTIONキーを2度押します。

●加減乗除計算

例　題	操　作	表　示
12.3＋74－90＝	FUNCTION	
－3.7	12.3＋74－90＝	－3.7
(12－0.5)×3÷7＝	FUNCTION	
4.9285714	12－.5×3÷7＝	4.9285714

●定数計算

例　題	操　作		表　示
10＋7＝17	FUNCTION	7＋＋10＝	17. ＋K
12＋7＝19		12＝	19. ＋K
78－12＝66	FUNCTION	12－－78＝	66. －K
45－12＝33		45＝	33. －K
2.3×45＝103.5	FUNCTION	45××2.3＝	103.5 ×K
5.1×45＝229.5		5.1＝	229.5 ×K
78÷9.6＝8.125	FUNCTION	9.6÷÷78＝	8.125 ÷K
1.2÷9.6＝0.125		1.2＝	0.125 ÷K

★計算モードでキー操作をしないでおくと、５～６分後自動的に時刻表示に戻ります。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±15秒以内
基本機能：時刻表示　時・分・秒・午前(A)／午後(P)／24時間制表示
　カレンダー表示　年・月・日・曜日、フルオートカレンダー（1990年～2089年）
電話番号機能：電話番号などを最大120件までメモリー（名前6桁、電話番号12桁）
　自動ソート機能、シークレット機能
スケジュール機能：月・日・時・分・メッセージを最大120件までメモリー（メッセージ8桁）
メモ機能：メモを最大120件までメモリー（メモ12桁）
カレンダー機能：1990～2089年までのカレンダーを表示
ワールドタイム機能：世界24ゾーンの時刻を表示、世界地図表示
　サマータイム表示付
アラーム機能：時刻アラーム５本、セット単位＝分
　電子ブザー＝20秒間
　時報＝毎正時に２回電子ブザーで報時
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒
　計測範囲＝23時間59分59秒99（24時間計）
　計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、１・２着同時計測
計算機能：８桁加減乗除・四則定数計算、計算状態表示付
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能（±30秒アジャスト）、アラームセット機能
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12／24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子
　ワンチップC／MOS-LSI
使用電池：CR-2016（電池別途販売）
　※電池はカシオ製電池またはカシオ指定電池をお使いください。
電池寿命：約18ヵ月
　（１日当り、電子ブザーを20秒間使用した場合）